



# 令和4年度 水稻生育診断情報 No.4

(令和4年7月26日)

(情報作成)滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は 8/22 頃の予定)

## 現在の生育状況

◎作況調査では、「みずかがみ」「コシヒカリ」とも草丈は平年より長く、茎数は少なく、葉色は濃く推移している。

「みずかがみ」の出穂期は、平年より2日早い7月21日となった。

◎県内ほ場の「みずかがみ」では、7月18日頃を中心に出穂期を迎えている。

5月上旬移植の「コシヒカリ」では7月24日頃に出穂期を迎えている。

## 管理のポイント

◎稲作期間の中で出穂期前後の要水量が最も多く、特に白未熟粒等の発生を軽減するため、出穂期前後各3週間は常時湛水を行う！ 水深は3cmから5cmの浅水で管理する。

◎穂いもち防除を適切に行う。発生予報注意報第3号参照 (<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5337633.pdf>)

◎斑点米カメムシ類の発生状況は、小型カメムシ（アカスジカスミカメ等）が多い傾向にあり、防除は乳熟期頃（出穂7～10日後）に行う。ただし、ホソハリカメムシ類が確認できるほ場では糊熟期頃（出穂10～20日後）に防除する。発生予報注意報第4号参照 (<http://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5338175.pdf>)

## 1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根気象台観測、平年は過去10年間の平均)

期間	要素	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	7月	上旬	かなり高い	高い	かなり多い
中旬		やや低い	平年並	かなり少ない	かなり多い

(2) 近畿地方1か月予報(7/23～8/22までの天候見通し)【大阪管区気象台7月21日発表】

- 向こう1か月の天候は、平年と同様に晴れの日が多い。
- 平均気温は高い確率50%、降水量は少ない確率40%、日照時間は多い確率40%。
- 週別の気温は、1週目は平年並の確率50%。2週目は平年並または高い確率ともに40%。3～4週目は高い確率50%。

## 2 生育状況

【農業技術振興センター 水稻作況調査(7月20日時点)による。表1および後掲グラフ参照。】

- 両品種ともに草丈は平年より長く、茎数はやや少ない(7月10日調査)。
- 7月20日の葉色は、両品種ともに平年より濃く、主稈葉数は「みずかがみ」は平年より0.2枚少なく、「コシヒカリ」は0.2枚進んでいる。

表1 令和4年(2022年)水稲作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m <sup>2</sup> )				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	みずかがみ	93.3	78.7	119	74.0	500	521	96	510	41.9	40.5	103	40.2	12.8	12.4	0.4	12.4
	コシヒカリ	89.7	79.7	112	76.3	545	564	97	567	38.9	37.6	103	36.5	12.4	11.7	0.7	11.6
7/20	みずかがみ	-	-	-	-	-	-	-	-	41.0	38.0	108	37.5	13.0	13.2	-0.2	13.0
	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	41.2	38.0	108	37.5	13.2	13.0	0.2	12.7

※移植日：5月10日(播種日：4月19日)。栽植密度：18.5株/m<sup>2</sup>、植付本数は3本/株。

※平年は、H25～R3年(9年間)の平均値。

※平年比の網掛けは、±5%以上を示す。

### 7月20日現在の生育状況



「みずかがみ」



「コシヒカリ」

表2 水稲作況調査 生育ステージ(7月20日時点)

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種：「みずかがみ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	6月28日	6月29日	1日早い	7月1日
出穂期	7月21日	7月23日	2日早い	7月24日
成熟期	未	8月25日	—	8月30日

品種：「コシヒカリ」

生育期	本年	平年	較差	前年
幼穂形成期	7月2日	7月3日	1日早い	7月5日
出穂期	7月26日	7月27日	1日早い	7月27日
成熟期	未	8月31日	—	9月4日

※移植基準日は5月10日(播種基準日：4月10日)。

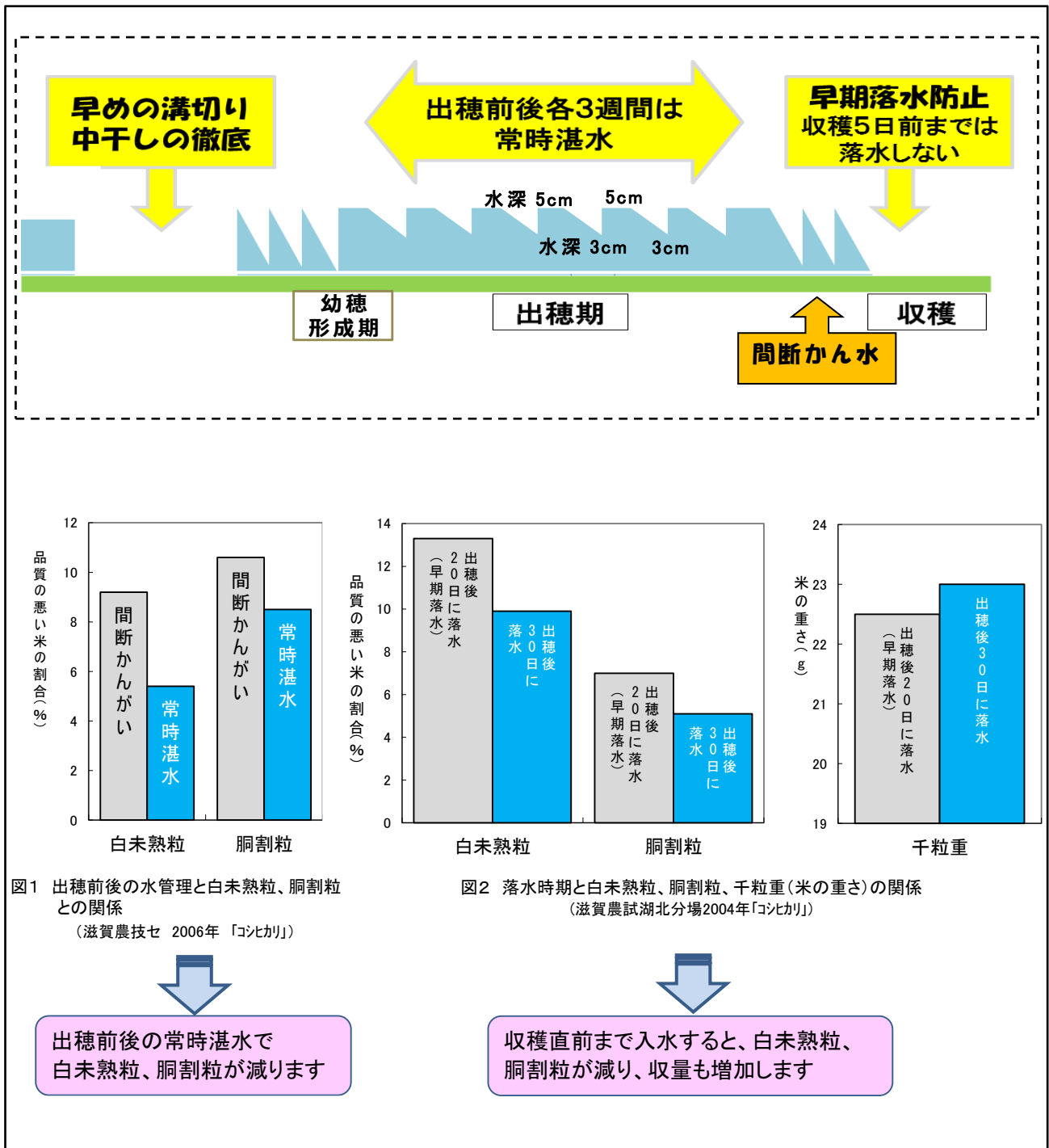
※平年は、H25～R3年(9年間)の平均値。

### 3 今後の管理

#### (1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う（図1）。
- 湛水管理では、水深3cm～5cmの浅水管理を行う。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる（図2）。

※用水利用にあたっては、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



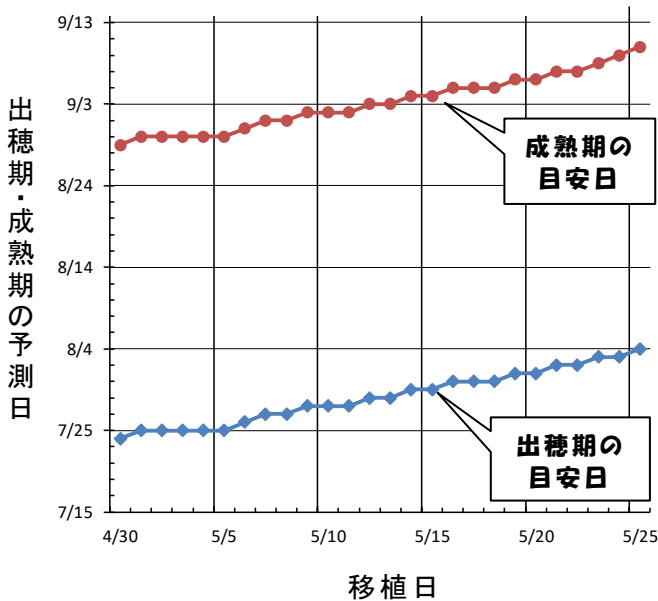
## (2) 適期収穫

■ 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後 30 日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。

■ 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(籾)の色をしっかりと確認し、黄化籾が 85～90% になった頃に収穫する(図 3)。

特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

【参考】「コシヒカリ」の出穂期  
および成熟期の目安日



### ☆過去 9 年の登熟日数

品種名	出穂期から成熟期 までの日数
みずかがみ	32～35日
コシヒカリ	33～37日

※H25年～R3年水稲作況調査データより

注) 栽培管理支援情報サービス(SAKUMO)による7月20日時点の出穂期・成熟期を予測(近江八幡市安土町大中)。近江八幡市安土町より気温が高い地域はこれよりも早くなり、低い地域はこれよりも遅くなる。

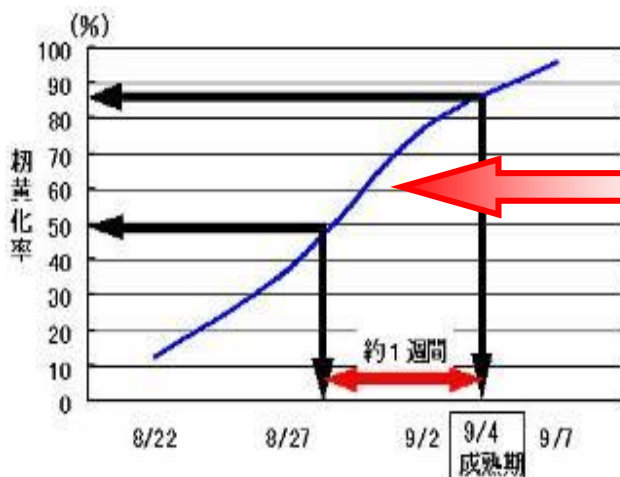


図 3 成熟期前の籾黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

## (3) 病虫害防除

7月20日発表の「病虫害発生予報第7号」

(<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzuyouhou/yohou/>) または

県HP 組織から探す>農政水産部病虫害防除所>発生予察>発生予察情報>病虫害発生予報を参照

### ①穂いもち【発生時期：やや早、発生量：多】

→**注意報第3号**「穂いもちの防除は確実に！」を確認しましょう！

- ほ場の状況（水稻の生育や葉いもちの発生状況）をよく確認し適期に防除する。
  - ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期の間に散布する。
  - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期の間にも防除する。
  - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
- 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループ薬剤を連用しない。
- 粒剤を施用する場合、湛水状態にし、散布後1週間は、落水やかけ流しをしない。

### ②紋枯病【発生量：平年並】

- 前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。
- 病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。
- 粒剤施用の場合は必ず湛水状態とし、畦畔等からの漏水防止に努めるとともに、散布後1週間は落水やかけ流しは行わない。

### ③斑点米カメムシ類【発生時期：平年並、発生量：多】

→**注意報第4号**「斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ」を確認しましょう！

- 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので早急に除草する。
- 雑草管理が不十分で、イネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。
- ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く発生しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に）出穂10～20日後）に防除する。
- 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
- 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。

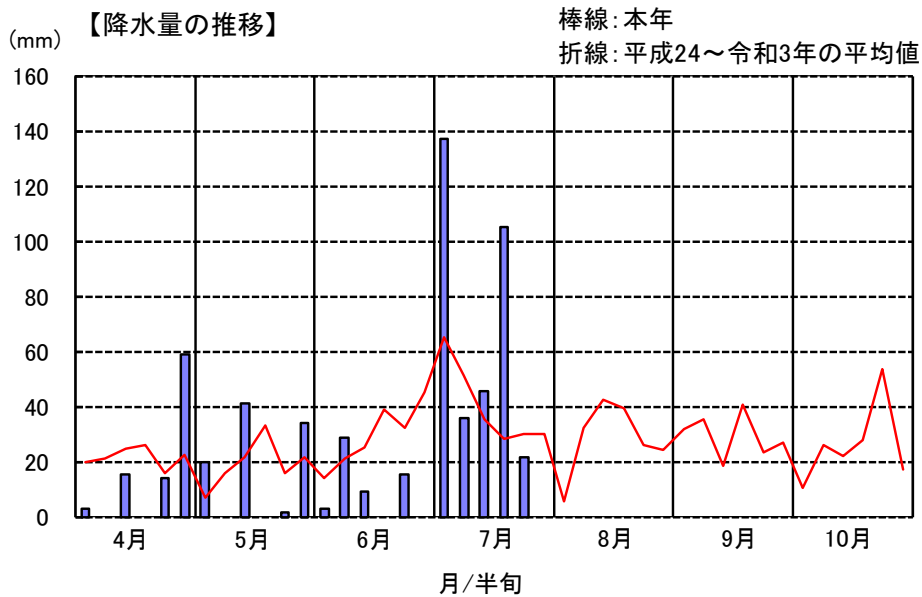
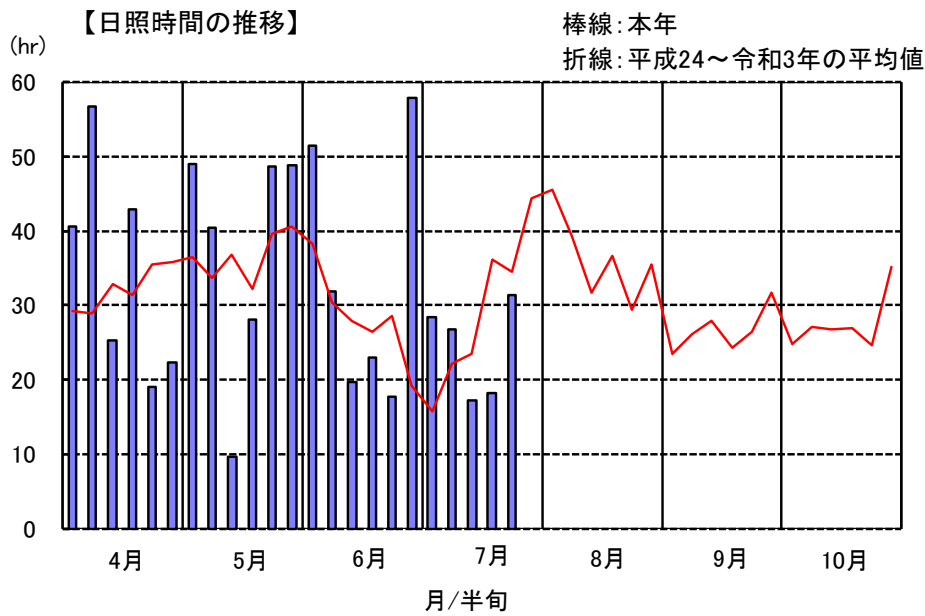
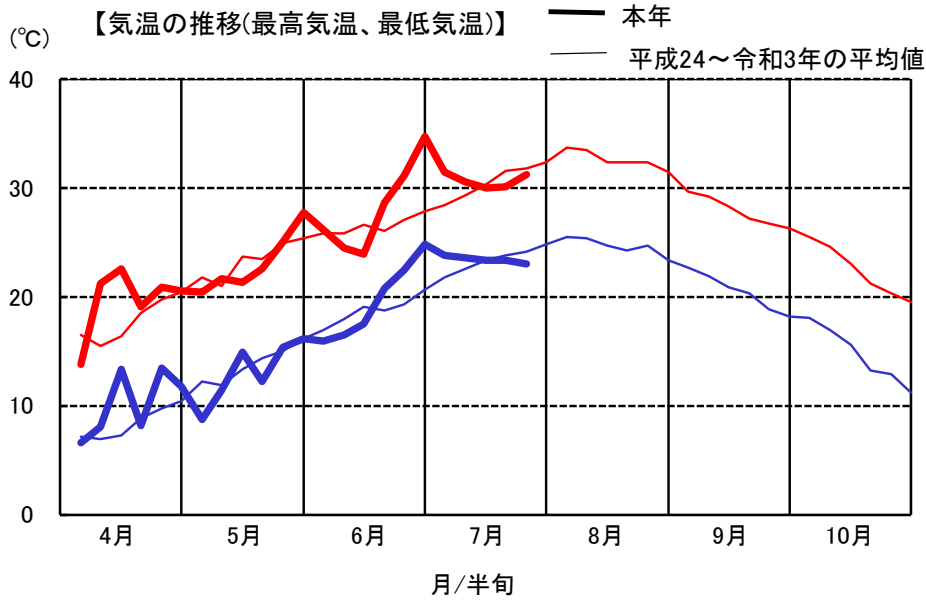
### ④コブノメイガ【発生時期：平年並、発生量：平年並】

- 9月上旬までに収穫可能な極早生・早生品種では、防除の必要性は低い。
- 晩生品種や晩植田、直播田では被害が発生しやすいので特に注意する。
- 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上、または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。

#### 【参考サイト】

農業技術振興センター	<a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/">http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/</a>
病虫害防除所	<a href="http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/">http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/</a>
彦根地方气象台	<a href="http://www.jma-net.go.jp/hikone/">http://www.jma-net.go.jp/hikone/</a>
早期天候情報	<a href="https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/">https://www.data.jma.go.jp/cpd/souten/</a>

# 令和4年(2022年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)



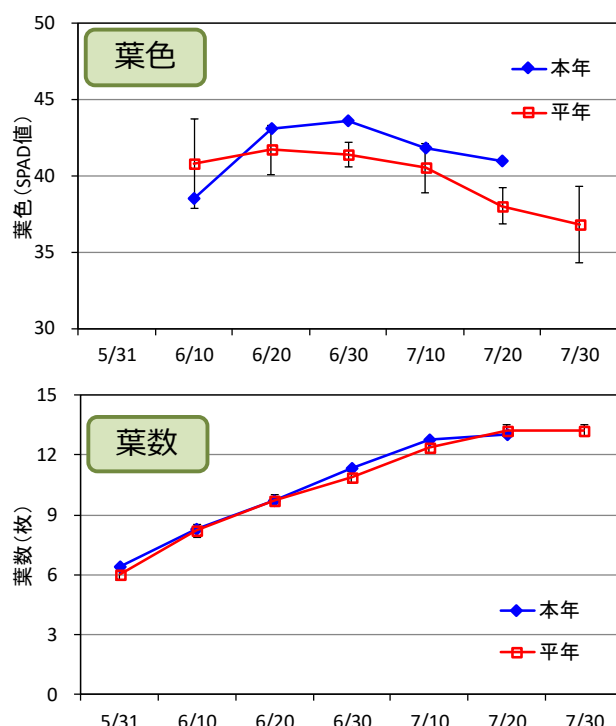
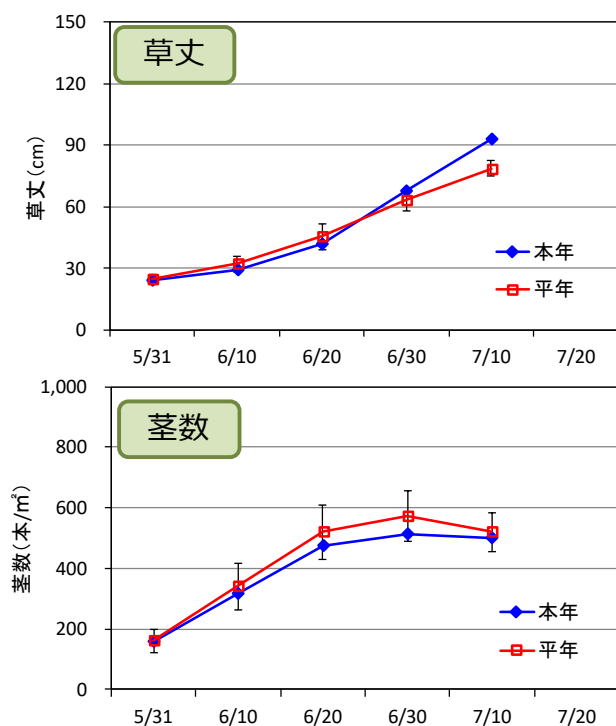
注) 平年は平成24～令和3年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

# 令和4年(2022年) 水稻作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

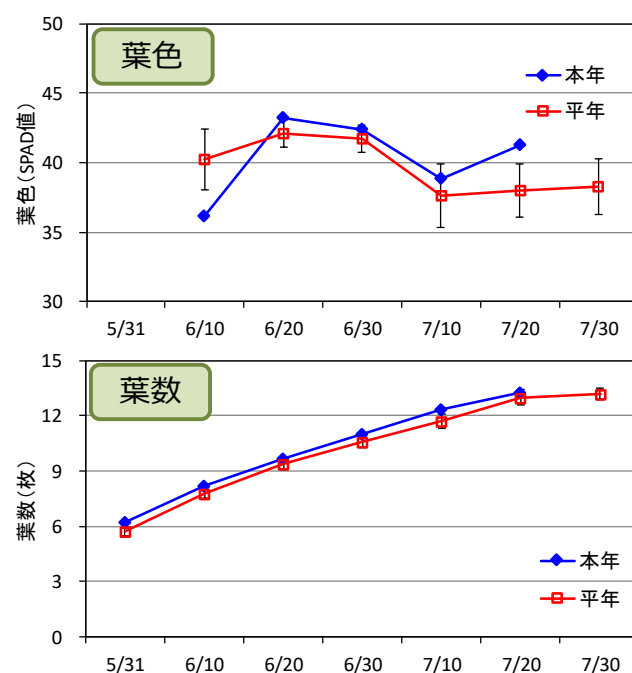
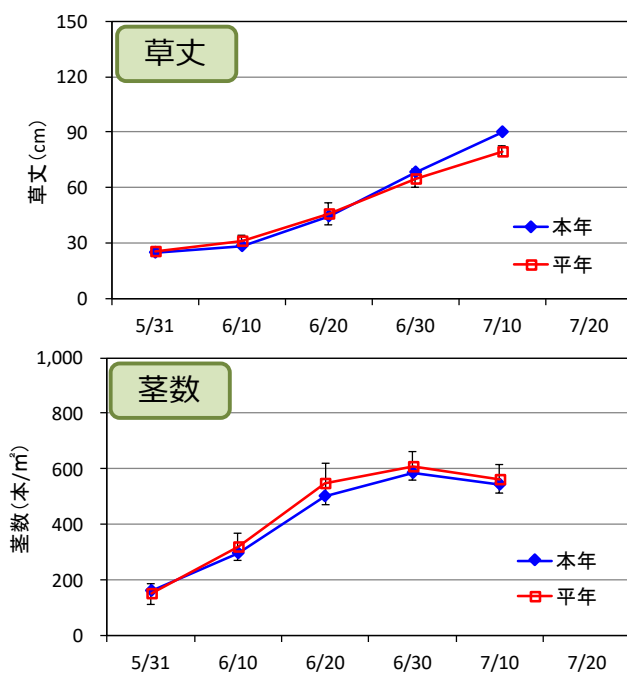
## みずかがみ

播種:4月19日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株



## コシヒカリ

播種:4月19日、移植:5月10日、栽植密度:18.5株/㎡、植付本数:3本/株



注)平年は過去9年(H25年~R3年)の平均値。